

一九七九年
ン、マサイキリン2、フタコブラクダ、ミミナガヤギ
トラ3、ミゼットポニー1、フタコブラクダ1、ダマ
シカ、ハナジカ、マサイキリン4、オグロヌー2、ミ
ミナガヤギ1、インドオオヅル1、

一九八〇年
インドクジャク、トラ2、ライオン1、グラントシマ
ウマ1、ミゼットポニー4、フタコブラクダ2、ハナ
ジカ、マサイキリン4、インドトギコウ2、インドオ
オヅル1

一九八一年
トラ2、グラントシマウマ1、マサイキリン1、フタ
コブラクダ2、ハナジカ、ダマシカ、ミミナガヤギ
3、エランド1、ミゼットポニー1、コクチヨウ3

一九八二年
ジェフロイクモザル1、ミゼットポニー、フタコブラ
クダ1、ハナジカ、マサイキリン3、グラントシマ
ウマ2、レア

一九八三年
グラントシマウマ3、フタコブラクダ2、ハナジカ、
ミミナガヤギ3、ダチヨウ7、チリーフラミンゴ1、
アカクビワラビー

一九八四年
グラントシマウマ1、ミゼットポニー1、フタコブラ
クダ4、ハナジカ、マサイキリン2、ミミナガヤギ
7、ダチヨウ9、シユバシコウ3

一九八五年
ワオキツネザル1、ムネアカタマリン1、グラントシ
マウマ3、ミゼットポニー1、フタコブラクダ4、ハ
ナジカ、マサイキリン5、ミミナガヤギ5、ダチヨウ
4、シユバシコウ2

一九八六年
ミゼットポニー、ハナジカ、ハリネズミ3、オグロ
ヌー3、グラントシマウマ1、ライオン1、ミミナガ
ヤギ2、ブラックバック1、マサイキリン1、フタコ
ブラクダ1、ワオキツネザル1

一九八七年
ハリネズミ1、ワオキツネザル2、リスザル1、ジェ

一九八八年
フロイクモザル1、チンパンジー、マール、ミール
キャット、グラントシマウマ3、ダマシカ、ハナジ
カ、ラマ、マサイキリン4、オグロヌー4、ブラック
バック、ミミナガヤギ1、ダチヨウ1、シユバシコウ
2、ヨーロツパフラミンゴ、チリーフラミンゴ、エジ
プトガン

一九八九年
マサイキリン、グラントシマウマ3、ワオキツネザル
3、オグロヌー5、フタコブラクダ5、ライオン2、
マール、ハナジカ、ミミナガヤギ6、ヨーロツパフラ
ミンゴ1、チリーフラミンゴ10、シユバシコウ1

一九九〇年
パールマワラビー、ワオキツネザル2、ライオン6、グ
ラントシマウマ2、マサイキリン3、ハナジカ、フタ
コブラクダ2、オグロヌー4、ミミナガヤギ4、シユ
バシコウ1、ヨーロツパフラミンゴ1、チリーフラミ
ンゴ11

一九九一年
マサイキリン2、グラントシマウマ2、マール3、オ
グロヌー4、リスザル1、ワオキツネザル1、ミミナ
ガヤギ3、ライオン2、ヨーロツパフラミンゴ1、チ
リーフラミンゴ15

一九九二年
チンパンジー2、マサイキリン2、トラ3、ヒヨウ
2、フタコブラクダ、グラントシマウマ1、オグロ
ヌー3、パールマワラビー1、アカカンガル1、ケ
ーハイラックス1、ベニイロフラミンゴ1、チリーフ
ラミンゴ14

一九九三年
アカカンガル1、パールマワラビー1、チンパンジ
ー3、マサイキリン、フタコブラクダ1、グラントシマ
ウマ1、ミミナガヤギ2、ダチヨウ4、ベニイロフラ
ミンゴ1、チリーフラミンゴ9

パールマワラビー1、アカカンガル1、ジェフロイク

- 一九九四年
モザル1、トラ2、グラントシマウマ2、ハナジカ、オグロヌー3、ミミナガヤギ5、ベニイロフラミンゴ2、チリーフラミンゴ18、アフリカヘラサギ1
マサイキリン1、フタコブラクダ2、グラントシマウマ1、ミゼットポニー1、トラ3、アフリカヘラサギ3、ピグミーマーモセット1、パルマワラビー1、チリーフラミンゴ17
- 一九九五年
アカカンガルー1、アフリカヘラサギ3、オグロヌー1、ヒヨウ1、レッサーパンダ2、チンパンジー1、ミゼットポニー2、マサイキリン、ハナジカ、ワオキツネザル2、ハワイガン2、チリーフラミンゴ17
エジプトルーセットオオコウモリ5、ワオキツネザル、チンパンジー1、グラントシマウマ1、オグロヌー1、ミミナガヤギ3、ハワイガン2、プレリードック15、シヨウジョウトキ2、チリーフラミンゴ15
ミゼットポニー2、ワオキツネザル1、アフリカタテガミヤマアラシ2、ミミナガヤギ2、チリーフラミンゴ13、ベニイロフラミンゴ1、ハワイガン1
- 一九九七年
エミュー2、ダチョウ1、ミゼットポニー1、ハワイガン4、キオン1、トナカイ1、ワオキツネザル1、アフリカタテガミヤマアラシ4、チリーフラミンゴ17
アカカンガルー2、ニホンザル1、マラー3、ミゼットポニー1、ミミナガヤギ1、ダチョウ2、ベニイロフラミンゴ1、チリーフラミンゴ3、オシドリ4、タンチョウ1
- 一九九九年
チンパンジー1、ライオン4、ロバ1、ミゼットポニー2、マサイキリン1、オグロヌー1、ミミナガヤギ2、カピバラ1、シヨウジョウトキ5、アフリカヘラサギ、ハワイガン5、タンチョウ2

- 二〇〇一年
アカカンガルー1、チンパンジー2、アライグマ8、マサイキリン2、ミミナガヤギ1、シヨウジョウトキ3、チリーフラミンゴ12、ベニイロフラミンゴ1、ハワイガン1、
- 二〇〇二年
アカカンガルー1、リスザル2、チンパンジー1、アライグマ5、ミゼットポニー1、カピバラ1、マサイキリン1、シヨウジョウトキ1、アフリカヘラサギ1、チリーフラミンゴ24、ツクシガモ1
- 二〇〇三年
アカカンガルー1、リスザル4、ミーアキャット2、グラントシマウマ、トナカイ1、マサイキリン1
リスザル4、グラントシマウマ1、ミゼットポニー1、ハナジカ、マラー1、コールドダック1、ソデグロバト1
- 二〇〇四年
アカカンガルー1、エジプトルーセットオオコウモリ7、リスザル2、グラントシマウマ1、ミゼットポニー2、ミミナガヤギ5、ダチョウ2、シヨウジョウトキ10、チリーフラミンゴ4、ツクシガモ7、ソデグロバト1
- 二〇〇五年
レッサーパンダ1、ロバ1、グラントシマウマ1、ミゼットポニー2、ミミナガヤギ4、マラー4、カピバラ3、シヨウジョウトキ1、ハワイガン3、エジプトルーセットオオコウモリ3
- 二〇〇六年
二〇〇六年度までの主な繁殖動物をまとめてみました。太字で示したものは、当園で初めて繁殖したものです。斜字で示したものは、日本国内で初めて繁殖したものです。そして、下線で示したものが注目すべき繁殖事項です。

・ダチョウの繁殖
これは、当園で語り継がれていることです。ダチョウの繁殖は、

それまで、全国の動物園で産卵はするけど、ふ化、成育したことがありませんでした。ダチョウは地上に巣をつくるため、梅雨のある日本では、自然繁殖は難しく、産まれた卵は、室温を三十八℃にセツトした孵卵器に入れていました。卵がどういふ訳だか途中で死んでしまうのです。そこで、飼育係が座っている雌のダチョウに飛び乗り、体温を測ることにしたそうです。すると、体温が三十八℃だったそうです。鳥類にしては低い体温です。そこで、孵卵器の温度を二℃下げて三十六℃にしてみましたところ、四十二日目に見事にふ化したそうです。これが、日本では初のダチョウの繁殖です。後日談があつて、日本の動物園ではじめて誕生して六ヶ月以上成育した功績に対して(社)日本動物園水族館協会は繁殖賞として認定します。実は、浜松市の動物園も全く同じ試みをして成功したそうです。そして、両園とも繁殖賞を申請したところ、当園のほうが一週間だけ早く産卵していたということです。

・マサイキリンの繁殖

アフリカからやってきたキリンが当園ではじめて繁殖したのが、開園七年目、推定年齢八歳の時でした。私が動物園に勤めるようになって数ヶ月のことで、非常に印象に残っています。一年を通して暖房をしないキリンですが、繁殖した親子がはじめて経験する冬の間、夜間だけ暖房(十五℃)の部屋に収容します。以来、当園での出産数は六十頭を超え、日本国内はもちろん、海外へも婚入りや嫁入りをしています。

・インドトキコウの繁殖

当時、学識経験者等に相談し、群れで生息し定住性の高いインドトキコウ(コウノトリの一種)が園の上空を自由に飛翔する展示実験をして成功しました。そして、繁殖にも漕ぎ付けました。この時コウノトリに三角関係があることなども経験しました。しかし、一番の難敵は台風時期に繁殖があることでした。その年も、雛の巣立ちを数週間後に迎える頃、台風が襲来してきました。巣を掛けてい

る松の木の中ほどには、万一雛が落下した時のために救護網を張り、夜通しの見張りをしました。悪い予感はあるもので、雛たちは巣から落下してしまいました。幸い、雛は地面まで落下したものの、救護網があつたためか無傷で元気でした。翌日は台風一過晴れ渡っていました。そこで、雛に給餌をして巣に返すことにしました。試みは成功して、日本で初めての繁殖に繋がる訳です。台風の時、最後まで雛を守って巣に居たのは雄でした。そして、巣に返した雛のもとへ最初に飛んできたのも雄の個体でした。一方、雛の巣立ちを促し、最後まで雛たちのために餌を運んでいたのは雌の個体でした。

・アカクビワラビーの人工哺育

アカクビワラビーは、小形のカンガルーの仲間です。カンガルーの仲間は幼獣を袋(育児のう)の中で育てます。その幼獣が袋から落ちてしまったのです。しかも、毛の無い状態でした。有袋類の子育ては、特殊なだけに様々な工夫が必要でした。そこで、袋の中と同じ温度に保温するため孵卵器を改造しました。保湿のためにはハンドクリームを使用しました。授乳も哺乳類ではタブーとされていませぬ強制的にミルクを口に流し込む方法を用い、おそらく日本では初めての無毛状態のアカクビワラビーの人工哺育に成功しました。

・フラミンゴの繁殖

当園は現在約三百羽のフラミンゴを飼育しています。フラミンゴシヨウを行うこともあり、フラミンゴの飼育頭数は減らしたくありません。現在、動物園の飼育動物は自然から持ち込むことが出来なくなっています。そこで繁殖が必要になります。フラミンゴの繁殖場は設置したもののあまり成績が良くありませんでした。その時、神戸市の動物園で数多く繁殖していることを聞き、すぐに参考にすることにしました。低くても天井に屋根を張り、新たに繁殖している六ペア(チリーフラミンゴ十羽、ヨーロッパフラミンゴ二羽)を神戸市の動物園から導入しました。それが現在の当園の繁殖に繋がっているのです。